

2018年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：ドイツ デュッセルドルフ大学

留学期間：2018年4月～2019年2月

今回の留学で、私は特に「言語」というものに対する関心を深めることができました。ドイツでは「タンデムパートナー」というドイツ語を学びたい日本人と、日本語を学びたいドイツ人同士が言語学習を目的に交友関係になるシステムの様なものがあり、私も半年間タンデムパートナーを組んでいたドイツ人がいました。当初私は、ドイツ語のスピーキング力の向上を目的にタンデムパートナーを探しており、パートナーになってくれたドイツ人は積極的に私の勉強に付き合ってくれました。しかし、タンデムパートナーを組んだことで、ドイツ語のみならず日本語に対する理解や関心を深めることもできました。日本人がドイツ語を学ぶ際にちょっとした言い回しや単語の違いを理解するのに苦しむ様に、ドイツ人もまた日本語の微妙なニュアンスや単語の違いに疑問を抱き、「この場合は と 、どっちを使うの?」と聞かれることがありました。説明するために例文を考えたりするのですが、意外と相手に理解してもらい説明をすることが難しく、そういった状況では改めて「日本語」という言語について考えさせられました。

また、留学中にドイツ以外の国に行くことで、ドイツ語以外の言語に触れることもでき、そのおかげで国は違うのに言語系統が似ている国では駅で見かける単語(例えば「出口」)も似ていて道に迷うこともなかったり、逆にドイツ語と似ている言語は旅行した国の中にはなかったりと、同じ大陸でもここまで言語で差があったり似ていたりするのだと思い、言語の学習に関してさらに関心が深まりました。

学習の成果としては、当初考えていたほどの語学力向上とはなりませんでしたが、同じ留学生の中でもレベルは下でしたが、上手く話せない時は話せないなりに知っている単語で会話をする、問題を解決する、相手に伝わるまで頑張ってみる、という面では留学初期よりも進歩できたと思っています。

また、初めて海外に行き、初めて一人暮らしをしたことで、改めて自分を見つめなおし、ダメなところ、頑張れるところを再確認することができました。留学中は嫌な事や面倒な事もありましたが、それらを後回しにせずやってみることで、「自分でもできる」という自信を持つ機会も得られました。留学前から感じ、学んでみたかった異文化についても実際に触れてみることで、自分がどう感じるのか、本当に自分が興味を持つものは何なのかを知ることができました。

留学当初は就活への影響を考えて不安になることもありましたが、帰国後も準備等に追われて焦りも出ませんが、それでも日本ではできないであろう体験ができたことを踏まえると、やはり「日本」という枠から出てみて良かったなと思いました。

2018年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：ドイツ デュッセルドルフ大学

留学期間：2018年4月～2019年2月

留学当初、私は全くドイツ語を話すことができませんでした。最初にクラス分けテストを受け、配属されたクラスはB1クラス(2級合格者レベル)でした。実際にそのクラスで学んでみてクラスメイトの語学力に私のレベルが追いついていないことを実感しました。特にひどかったのがリスニングで、授業ではよく2人ペアになって会話の練習をすることが多かったのですが、相手が何を言っているのか毎回聞き取れず、その度に自分のドイツ語のできなさに恥ずかしさを覚えていました。その頃、同じクラスに入った他大学から来ていた日本人の友人とともに語彙力をつけようと週に一度単語テストを行うようになりました。その子はもともと私よりも会話もリスニングもできて、語彙力もありました。ですがなぜか彼女に対し対抗心を燃やし、勉強しました。成果を感じ始めたのは半年経ってからでした。だんだんドイツ人が何を言っているのかわかるようになり、単語もすんなりと出てくるようになりました。帰国する頃にはドイツ人の友人のパーティ(ドイツ人しかいない)やお家に招待されてもどうにかやっていけるくらいには上達しました。ドイツ語を話せるようになればなるほど、ドイツ語が話せなかったら出会うことも話すこともなかった人たちと関わることができたり、あらゆるテーマで深い話をするができるようになり、言語を覚えることの楽しさを感じるようになりました。ドイツには3ヶ国語、4ヶ国語を話せる人がざらにいます。彼らはきっと私たちよりも広い世界を知っていて、しかし世界を近くに感じているのだと思います。私自身もそのための努力を続けていきたいと思っています。

ドイツはヨーロッパの中でも一二を争う先進国です。そのためあらゆる国から出稼ぎや移住、研究などのために多くの人が集まってきます。ドイツの経済はそんな移住者をうまく取り込んで効率よく回っています。ドイツでは日本に比べて残業が少ないです。また基本的に日曜日、スーパーや小売店は閉店法(Ladenschlussgesetz)により営業が禁止されています。ドイツは有給取得率がほぼ100%の国で法律により企業は最低24日間の有給休暇を社員に付与することが義務付けられています。そのため例えば三週間分の有給を夏休みとして使い、スペインのマヨルカ島へバカンスに行く、なんてことはよくあります。日本では長期休暇といったらゴールデンウィークや年末年始の数日間で、有給を合わせてとったとしても長くても一週間くらいだと思います。様々な国籍の友人に聞いてみたところ、これは日本だけのようで、どの国も夏休みとして一ヶ月ほど有給休暇を取ることは可能らしいです。

また、日本の国債は世界で最も多く、一秒で約100万円も膨らんでいるそうです。その影響は私たち国民の暮らしにも及んでおり、よく挙げられる例として“年金”があります。また日本の消費税は8%ですがドイツの税金は7%～19%です。ドイツは比較的税金の高い国として有名ですが、その税金の高さを日常生活においてあまり感じる機会はありませんでした。例えば食材の値段はそこまで高いとはいえ、むしろ値段の割に量が多いケースが多いです。例えば肉は1kgで500円からあったり、ビール500mlで30円～100円程度だったり。また、家賃も日本に比べて比較的安いです。そんな私にとっ

てはコスパの良いドイツでしたが、他の留学生に聞いてみると大半が「ドイツは物価が高いよ」と言いました。そう考えてみると日本で生活するためには本当にお金がかかります。ドイツ留学は私に日本がどういう国なのか、その魅力と課題を教えてくださいました。

2018年度 交換留学 留学報告書

日本語日本文学科 3年

留学先：ドイツ デュッセルドルフ大学

留学期間：2018年4月～2019年2月

デュッセルドルフで過ごした11ヶ月は想定していたよりもあっという間で、とても充実した留学生活になりました。一昨年の夏に海外語学実習で同都市を訪れていたため、到着してもさほど混乱することはありませんでしたが、留学当初はとにかく帰国したかったのを覚えています。語学学習の際と違い、一人で寮の契約やビザの予約の取得に行ったりしたので、その都度少し緊張しました。しかし、せっかくならできることは一人でやってみたいと思い、できるだけチューターの方に頼らないようにして過ごしました。結果、突然のトラブルへの対応や帰国に向けての退寮手続きなど、自身でこなせることが増えて良かったと思っています。

ドイツ国内では、何も無い田舎から、地元の人がほとんどの小さなお祭り、有名な古城、世界遺産まで色々なところでできる限り足を運びました。初めのころは見ることや展示の文章を読むことを目的として出かけていたのですが、会話の練習にもなりました。市内にいるより、一人で電車に乗って外に出かけたほうが人と話す機会に恵まれるのは少し不思議なことです。辞書も通信機器も持たずにいると、使えるのは今までに記憶した知識だけなので、なんとなく授業より頑張って話すことができました。教会の案内役の方は街の魅力を、電車で隣の席になった方はドイツの良さを、お祭りで出会ったご夫婦は旅と街歩きの楽しさをたくさん話ってくれ、聞き取りに精一杯になりながらも、楽しく過ごすことができました。日常に溶け込めるように努力していると、今度はこちらが質問される側になっていき、だんだん見知らぬ人ともぎこちなく会話できるようになりました。大学で知り合えるのは同年代の学生が大半なので、日帰りのささやかな旅行の様々な年齢や職業の方々との一期一会の出会いに感謝しています。

自国の文化は他国との関わりによって改めて自覚し理解されうるもの、と考えたゆえに今回の留学を志望しましたが、人々と接し、行事を見物し、体感したそれぞれについて、自国の文化と照らし合わせて考える良い機会となりました。現地では素敵な友人もでき、近隣諸国を旅行したり、ミシュラン掲載店を巡ったりと、長期滞在を活かした贅沢な過ごし方もできました。

残りの大学生活と、その先の未来において、今回の留学経験が様々な場面で役に立つことでしょう。ドイツで過ごしたときのように、常識や固定観念にとらわれず、新しい知識と情報に貪欲に、前向きに行動できるようこれからも善処していきたいと考えています。